

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (四国)	◎	百貨店（販売促進）	・新型コロナウイルスの感染状況の改善が予想される。
	◎	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスは徐々に収束に向かっている。ワクチン接種も進捗し景気は良くなる。
	◎	旅行代理店（営業担当）	・県民割が実施される方針であり、客の旅行に対する意識が一気に高まる。
	◎	通信会社（営業部長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少していないが、新年度を迎えるに当たり、客に購買を控える雰囲気はない。
	○	商店街（事務局長）	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染者数が減らないなか、多くの方はウィズコロナの生活環境を受入れつつあり、消費者心理も徐々に改善へと向かう。
	○	商店街（代表者）	・リニューアルオープンにより、集客力のあるテナントが入り人出は多くなっている。新型コロナウイルス次第ということもあるが、春先のイベントなどは多くの人出が見込まれる。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	・ワクチンの3回目接種が終わった客から、今まで自粛していたお祝い事や法事などで使用する商品の予約が入ってきている。
	○	コンビニ（店長）	・客はこれ以上自粛は続けられないと感じている。4月からの値上げの影響にもよるが景気は良くなっていく。
	○	コンビニ（商品担当）	・新型コロナウイルスに関し、ワクチン接種により人流が増えると考えられるが、ウクライナ情勢によるエネルギー不足などで家計のひっ迫が予想される。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束し景気も上向く。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・新型コロナウイルス感染症の収束状況次第ではあるが、4月から県民割が再開され、今までの非常に厳しい状況から、少し脱却できると期待している。
	○	一般レストラン（経営者）	・コロナ禍の落ち着き、慣れ、気の緩み、暖かな気候、新年度のスタートなど、飲食する機会が増えると予想する。
	○	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除され、客足が戻ると予想する。
	○	都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染再拡大の状況によっては、大きく変化すると予想する。
	○	タクシー運転手	・遍路客の予約が少しずつ増加している。このままコロナ禍が収束方向に向かえば、夜の街にも徐々に人が戻ってくる。現状よりは多少良くなると予想する。
	○	通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症も多少落ち着き来客数も回復傾向。
	○	観光遊園地（職員）	・まん延防止等重点措置解除に伴い、ゴールデンウィーク期間中の多くの人出が期待できる。
	○	競輪競馬（マネージャー）	・ワクチンの3回目接種も進み、まん延防止等重点措置も解除され、新型コロナウイルスとの共存気運が浸透していることから、人流もこれから行楽シーズンに入り活発化し、景気は上向くと予想される。
	□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の治療薬及び待機期間の縮小など状況は改善されてはいるが、感染再拡大等の不安要素もあり不透明。ウクライナ情勢等により原油高が継続し、様々な物価も上昇傾向にあり消費が冷え込んでいく心配がある。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・まん延防止等重点措置が解除となり人出は戻っているが即好転にはならない。今後に期待したいが、状況を見極める必要がある。
□	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・食料品や光熱費の値上げの影響により消費者の節約志向が根付いており、まだまだ財布のひもは固い。	
□	百貨店（企画担当）	・今後の感染状況次第である。新型コロナウイルスからの回復が認められた場合には、景気は若干だが上向く。	
□	スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が大きく動かない限り消費の状況は変わらない。	
□	コンビニ（総務）	・景況感が変わるような要因が見当たらない。	
□	衣料品専門店（経営者）	・売上は好調で推移し、また賃上げする気配もあることから、景気は上向くと期待する。	
□	衣料品専門店（営業責任者）	・まん延防止等重点措置が長引き、春の重要な商戦が大きく損なわれたことから、半期の見通しは急激に悪化。客の動きが悪く回復には時間が掛かる。	

	□	家電量販店（副店長）	・新型コロナウイルスの感染を気にしない人が多くなってきているが、来客数は前年度と比べ縮小傾向で推移しており回復はまだ見込めない。
	□	乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスやウクライナ情勢などにより、業界へ悪影響が及んでいる。
	□	観光型旅館（経営者）	・ウクライナ問題と世界のコロナ禍からの回復による原材料高が景気の足を引っ張り団体需要などは盛り上がらない。個人の旅行需要だけでは旅行業界は回復できない。Go To Travelキャンペーンの利用も一回りすると減速すると思う。
	□	タクシー運転手	・例年、5月6月は新入社員の入社及び人事異動などによる慌ただしさが落ち着いてくるが、コロナ禍以降そういった動きもなく状況は変化しない。
	□	美容室（経営者）	・身近なところで新型コロナウイルス新規感染者数が増加しているが、その状況に慣れを感じている。
	□	設計事務所（所長）	・建築費については原材料や設備関係が更に高騰しているが、コロナ禍においても経済活動や設備投資が活発化している。
	▲	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染が一旦収束し、巣籠り消費の恩恵が縮小するとともに、相次ぐ食品の値上げで消費者の買い控えを予想する。
	▲	スーパー（店長）	・度重なる値上げにより消費低迷すると予想する。
	▲	スーパー（財務担当）	・まん延防止等重点措置の解除により、再び外食産業に人が流れると予想する。
	▲	家電量販店（店員）	・度重なる値上げにより必需品の購買傾向が強まる。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	・例年、売上は決算月が終わると落ち込むため、厳しくなると予測する。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況及びウクライナ情勢等により、今後どの様に変化するか予想が付かない。
	▲	乗用車販売店（役員）	・物価上昇の賃金への反映や生産の回復などの見極めが難しい。
	▲	通信会社（支店長）	・物価高の影響が消費行動にも影響する。
	×	スーパー（人事）	・新型コロナウイルスが収束するとは思えず、マイナスな材料ばかりが目立っている。
	×	コンビニ（店長）	・電力、燃料費等が高騰しているなか、運営コスト及び製品価格も上昇しており、ますます生活防衛に動き、購買意欲の減退は避けられない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・ウクライナ情勢により様々な物価が上昇し始めており当面悪化する。
企業 動向 関連  (四国)	◎	*	*
	○	食料品製造業（経営者）	・まん延防止等重点措置の解除に伴い、徐々に外食、観光業の回復が予想される。
	○	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・新型コロナウイルスの影響でウェットクリーナーの需要は高いが、供給量が多いため売上が伸びない。今後製造する商品の売上が上がれば景気が上向くと予想する。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・資源や部品が入手困難になっているが、代替品が開発されることにより、徐々に供給量も回復すると見込んでおり、景気もやや上向いてくると予想する。
	○	輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況をうまく受け入れている。マスクミに踊らされていない。
	○	通信業（総務担当）	・まん延防止等重点措置の終了を見越し、社外のイベント実施も予定され、景気は改善傾向になると予想している。
	○	広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が改善され、旅行関係の客先の販促回復や採用関係の受注見込みが予定されており、やや良くなると予想をしている。
	□	農林水産業（職員）	・消費者は日配品の値上げ、燃料価格の高止まり等、財布のひもは固くなる。一方で青果物は消費の調整役としての位置づけが定着しており、新型コロナウイルス発生前に戻る兆しがないなかでは、厳しい販売状況が続く。
	□	木材木製品製造業（営業部長）	・大手ハウスメーカーの受注が伸びない。材料費の高騰で利益が出ない状態になっており、値上げを行い、利益を確保していくことが急務な状態。
	□	電気機械器具製造業（経理）	・新型コロナウイルス第6波のピークは超えたものの感染者率は高止まりしており、さらにはロシアによるウクライナ侵攻に伴う金融経済への影響が出てきており、引き続き不安定な状況。

	□	建設業（経営者）	・コロナ禍、物価、ウクライナ、エネルギー問題などが精神的なマイナス効果となる。受注・売上額については、予算規模から例年並みが想定できる。景況感の大きな変動は想定しておらず、世相等のマイナス要素が払拭できないため、変わらないと予測する。
	□	建設業（経営者）	・景気が上向くことを期待するが、ガソリンを始め、様々なものが値上がりしていることが心配である。
	▲	一般機械器具製造業（経理担当）	・景気回復期であるが、ウクライナ問題を始め点在する地政学的リスクに加え、世界的な半導体不足による調達環境の悪化、原材料価格の高騰、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大の懸念等、依然として先行き不透明な状況。
	▲	輸送業（営業）	・新型コロナウイルスにおける3回目のワクチン接種や内服治療薬の普及が進み、低迷している消費が上昇に転じ景気回復につながることで取扱物量についても増加すると推察されるが、燃料油価格が低下しない限り、依然として厳しい経営を強いられる状態が続くと予想している。物流業界はいまだ楽観視できない状況であり、景気の先行き予測は極めて厳しい。
	▲	輸送業（経理）	・国内向けの出荷予定数量は微減、海外向けの出荷予定数量も横ばいか減少の見込み。
	▲	通信業（企画・売上管理）	・まん延防止等重点措置は解除されたが、依然として新規感染者数が高止まりしているとともに、ウクライナ情勢によるネガティブな貿易や株価の影響も懸念される。
	×	化学工業（所長）	・今後もますます原油価格の高騰は歯止めが掛からない。原油価格の高騰が、ナフサの高騰、原料価格の高騰を招いており、余りにも急激な価格上昇により製品単価への転嫁が遅れる。
	×	鉄鋼業（総務部長）	・稼働人員の減少とウクライナ情勢が主原料のスクラップ価格の高騰の原因となり、収益を圧迫している。
	×	税理士事務所	・国際情勢や円安が問題となり物価が上昇し購買意欲が減退する。
雇用 関連 (四国)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの収束を見越し、求人数が増加する。
	○	人材派遣会社（営業）	・新年度に向けて進学、転勤などにより、物も人も新陳代謝が進み、景気も少しずつ回復傾向にある。
	○	職業安定所（求人開発）	・新規求人数が前年同月と比較して増加傾向にある。宿泊、飲食、サービス業も増加している。原油価格の上昇とそれに伴う販売価格の上昇が気になるが、今後景気は上向くと予想する。
	○	民間職業紹介機関（所長）	・まん延防止等重点措置も解除され、最も打撃を受けていた「飲食」「宿泊」「観光」業界の復調が予想される。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	・まん延防止等重点措置の解除及び3回目のワクチン接種の加速により景気は回復に転じると予想する。
	□	—	—
	▲	求人情報誌（営業）	・中小企業では、人手不足に加え、原材料・燃料代の高騰を商品・サービス価格に転嫁できていない企業が多い。今後もこのままの状況が続くと予想されることから、景気は悪化の見込み。
	▲	求人情報誌製作会社（従業員）	・異動時期が落ち着き求人数の若干の減少が予想される。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス及びウクライナ情勢など、いずれの問題も収束して明るい兆しが欲しい。
×	人材派遣会社（営業担当）	・原油価格の高騰、物流コストの上昇に対し、人件費で経費削減する企業が増える可能性があり、景気の更なる悪化を警戒する。	